

令和6年度 第3回学校運営協議会 議事録

○3月8日（土）14：00～16：00 場所：校長室

出席者 協議委員：若林 中尾 伊丹 森

事務局：大石 高田 中田 荒木 中川貢

次 第

1 校長挨拶

- 出願数 455 で倍率は 1.26 倍となった。府全体では 1.02 倍となり、少子化や私学の無償化、大阪市内志向などが影響していると思われる。幸いにも GLHS10 校は何とか志願者数を確保している状況だが、これらに甘んじることなく、より充実した学校運営を行っていきたい。本日は、忌憚なくご意見いただければ幸いである。

2 協議事項

（1）令和6年度経営報告と令和7年度経営計画について

- 令和7年度経営計画において、めざす学校像は変わることはない。中期的目標については、英語力の伸長を測るため英検から TOEFL Junior に変更した。これは令和6年度からの変更で天王寺高校と本校が先行していたが、令和7年度からは GLHS10 校すべてで TOEFL Junior となる。
- 進学実績については、現役志向が強いが、浪人生の結果として医学部や京都大学などの難関大学に合格している。現役の3年間では部活動をはじめ授業以外の活動の学びも大きいので、浪人するという選択も大切にしたい。数値については、未計上である。
- 部活動で活躍する生徒が多くいる一方、勉強を全くしない生徒も出てくるなど、学習面のサポートやより丁寧な指導が必要になってきている。海外研修や SSH 研修では希望者が増加傾向にあり、教員が声かけをしてようやく手を挙げてくれた数年前と比較して、これらの取組みが周知されてきたことや生徒の積極性が向上していることは喜ばしい変容である。
- 遅刻生徒については、コロナ禍を経て「頑張って登校する」ことなく「無理をしない」「無理をさせない」という考えが根強くなったことも減らない要因として考えられる。皆勤賞についても、今年度から卒業式内での表彰は取りやめたところである。テレワークも多く実施されているが、社会では決められた時間に通勤することがまだまだ求められるので規則正しい生活習慣を確立していきたい。
- 働き方改革については、個人に業務が割り当てられる状態を解消して、可能な限り「見える化」し、大きな業務は分割して複数で分担するなどを進めていきたい。

- 学校教育自己診断結果については、後ほど議題に挙がっているが、保護者回答としてややポイントを落としている項目がある。「学校の楽しさ」や「授業の分かりやすさと楽しさ」、「部活動の満足度」の項目である。授業や部活動に求めるものも多様化してきている。生徒個人が家庭で保護者に伝えるときには「愚痴」のつもりでも、受け取った保護者にとっては「批判」の対象となっていることもある。より丁寧な説明や指導が必要となってきている。
- 設備については、老朽化があちらこちらに見られ、地中の水道管からの水漏れもあった。大阪府には改善の要求をしていくところである。
- 働き方改革について、会社でもいわゆるパパ休を取得しやすい環境を整備するよう求められている。学校でも教員が積極的に取得できるよう環境を整備することや生徒たちにもそれを理解してもらえる状態を作ることが必要である。
- 学校でももちろん制度上は存在しているが、授業を担当する限り一定期間を休む形ではなく、いわゆるズレ勤の形で勤務されているケースがほとんどである。このズレ勤については生徒たちも理解を示している。
- 遅刻については、遅刻だけではなく欠席も含めて考えた場合、体調不良によるものが主要素である一方、子どもたちは進学やクラスメートとの関係性などで様々なストレスを抱えている。家庭においても、ほっと一息入れられる環境としてとらえられず1人になりたいという気持ちもあるのではないか。断続的な欠席ではなく月に数回程度の欠席する生徒については、そういった視点でも生徒観察していただきたい。
- 「1人になりたい」という気持ちはよく理解できる。社会ではそういった理由で欠勤することはできないが、子どもを観察するうえでは貴重なご意見として参考にしたい。
- 学校や家庭での悩みについて、打ち明けられる教員は学校の中にいるか。
- 保健室で養護教諭が対応することが多い。1000人以上の在籍数の学校で養護教諭は1人体制である。保健室にははっきりなしで生徒が相談に訪れている状態であり、養護教諭の複数配置も要望しているところである。もちろん、担任や授業担当者を含め当該学年の教員は相談に乗る体制ではあるが、生徒にとっては指導されることなく話ができることを求めているとも受け取れる。外部のスクールカウンセラーも配置しているが、相談体制についてはより一層強化する必要性は感じている。
- 自分が高校生のときは、相談する先生が多くいた。自己診断の数値を見ても現状でもよく相談に乗っていただいていることが分かる。生徒の多様化に伴い対応も多岐にわたると思うが、学校として無理のない範囲で対応していただきたい。
- 不登校生徒の対応として、オンラインでの授業配信や通信教育は行っているか。
- 今のところ、校内では個別履修委員会を立ち上げて対応しているが、不登校による授業配信はお

こなった実績はまだない。

(2) 学校教育自己診断結果について

- 教職員については「教育相談」、「学校行事」の項目が大きく上昇している。特に大きな上昇のあった「学校行事」の項目については、球技大会を体育祭と切り離して1・2年合同で外部会場で実施するとともに、3年生に関しては学年行事として実施した。耐寒登山も廃止したことで、教員の負担感が減少したと考えられる。生徒にとっても行事が分散されたことで、適度なりフレッシュとなったと思われる。

(3) 第2回授業アンケート結果について

- おおよそ例年通りの結果であるが、こちらはあまり上下のないことが教科の一貫性を保っているとして読み取ってほしい。設問9の授業理解度の向上が授業評価の主たる要素として目標設定される先生方が多いが、適切な難易度を設定したうえで、「理解させてもらう」のではなく、「理解したい」という積極性を育むことも必要であることから、あまりにもこの数値が高すぎることも好ましくないと考えており、現状数値が適正範囲と考えている。

また、設問1の予復習については、肯定的な評価を自分自身で行っているが、これほど予復習がきちんとできているという実感はない。

→ 授業力向上については、何か取組みは行っているか。

- 年間2回の授業の相互見学週間に加えて、他校の視察や校内の将来構想委員会で授業力向上チームを立ち上げ、「良い授業とは」について研究している。

→ そういった取組みについては、保護者や生徒も周知されていないことだと思うが、このような取組みを多忙だと言われている教員が行っていることは非常に驚きであり、頭が下がる思いである。こういった取組みは生徒や保護者にも周知して理解を求めると広報活動しても良いのではないか。

- 大変有難いお言葉をいただき、感謝申し上げます。生徒や保護者に見えない学校取組みについての広報も必要であると感じた。

(4) GLHS 合同事業等に関して

- 先日2月に、GLHS 合同発表会を行った。発表も充実したものであった。その他にも、GLHSでの合同研修は複数あり、多くの生徒が希望する状況になっている。このような他のGLHS校の生徒との交流できる機会は非常に良い機会と捉えている。本校から希望した3年生が団長に立候補したり、自分の殻を破りたいという理由でも希望することもあったりと頼もしく成長を感じさせてくれている。

(5) SSH 事業に関して

- 探究活動を含めてSSH事業について、地域連携を軸に計画している。松原中学校をはじめ、松

原市とのつながりを大切にして、ともに行事を企画開催するなど充実させていきたい。

特に松原中学校とは授業見学に来ていただいたり、中学生に学習サポーターとして生徒を派遣したりと今年度は交流を深め始めている。今後ともよろしくお願ひしたい。

→ 中学生は非常に喜んでた。これからもよろしくお願ひしたい。

→ やはりそれらの取組みは保護者からは見えないところである。今そのようなことがあったのかと知ったところである。良い取組みは是非とも広報していただきたい。

• 有難いことである

(6) その他

3 事務連絡

• 学校運営協議会のみなさまには、次年度も引き続きお願ひしたい。また改めてお願ひのご連絡をさせていただくので、よろしくお願ひしたい。

資 料

- 1 学校経営報告 R6 学校経営計画 R7
- 2 学校教育自己診断（保護者・生徒・教員）
- 3 第2回授業アンケート結果
- 4 GLHS 合同発表会冊子
- 5 SSH 成果発表会冊子